

# ‘お κόσμος, ἀλλοίωσις’ お βίος, ὑπόληψις.’

11号 1990.5.10

文・編集・発行  
恋 怪子

## ARTIST: シオン

LIVE: 1987.5.17 千葉市民会館

THE BLUE HEARTSの出演イベントで、はじめてシオンを見た。全く聴いたことがなかったのでも、歌詞はききとれなかったが、独特のふんいきにひきこまれて見入っていた。ライブのあと、千葉駅まで歩いていっていると、ステージと同じような姿のシオンが一人で、やはり馬車の方へ歩いていった。印象的だった。

ALBUM: "SION", "春夏秋冬"

1987.9.5 シオンの歌をはじめて聴いたといえる日。「コンクリートリバー」にはじけおされた。こびきまわされて、ジタバタして、あがいて、光を求めつづけている。それがシオンの歌にはある。



ALBUM: "SIREN"

1988.7.21 "SIREN"を聴く。久しぶりのシオン。心の中にうずもれていたものが、じわっとにじんできて心の中をおおっている。



LIVE: 1988.9.26 渋谷公会堂

"SIREN"を何回も何回も聴いて、自分勝手な世界にいたらしく、その世界とステージのシオンとが結びつかなくて中途半端だった。

LIVE: 1989.3.2 パワーステーション

よかった。シオンが大人になって、心に陽があたっているんだなということが感じられて、それがとてもうれしかった。「つぶれかけたスタックの裏にはもう住んでいない。明日の酒の心配もない。まあいいことなした。だけどそれと満足とはまるきりちがう。好きで生まれてきたわけじゃない。選んで生きてこれたわけじゃない。けど好きで生きていたい」。はじめて聴く歌が「ぼん」とだけけれど、よく歌がききとれて、あたにかいふんいきで、楽しい曲では全身がどろた。タンゴの曲もよかった。シオンは独特のものをもっていて、その中で大人になっていっている。「新宿の片隅で」の瞳の目のすえ方と一貫しているものが感じられ、哀しい目のうえに、あたにかい目が重なってきている。大人の哀しい美しい歌を待っている、これからのシオンに。

TOUR: 7/11 (水) 大阪府立会館 7/22 (水) 7/26 (日) 名古屋三ツツホール 7/23 (月) 東京後楽園ホール (7/24、7/25、7/26、7/27、7/28、7/29、7/30、7/31、8/1、8/2、8/3、8/4、8/5、8/6、8/7、8/8、8/9、8/10、8/11、8/12、8/13、8/14、8/15、8/16、8/17、8/18、8/19、8/20、8/21、8/22、8/23、8/24、8/25、8/26、8/27、8/28、8/29、8/30、8/31、9/1、9/2、9/3、9/4、9/5、9/6、9/7、9/8、9/9、9/10、9/11、9/12、9/13、9/14、9/15、9/16、9/17、9/18、9/19、9/20、9/21、9/22、9/23、9/24、9/25、9/26、9/27、9/28、9/29、9/30、10/1、10/2、10/3、10/4、10/5、10/6、10/7、10/8、10/9、10/10、10/11、10/12、10/13、10/14、10/15、10/16、10/17、10/18、10/19、10/20、10/21、10/22、10/23、10/24、10/25、10/26、10/27、10/28、10/29、10/30、10/31、11/1、11/2、11/3、11/4、11/5、11/6、11/7、11/8、11/9、11/10、11/11、11/12、11/13、11/14、11/15、11/16、11/17、11/18、11/19、11/20、11/21、11/22、11/23、11/24、11/25、11/26、11/27、11/28、11/29、11/30、12/1、12/2、12/3、12/4、12/5、12/6、12/7、12/8、12/9、12/10、12/11、12/12、12/13、12/14、12/15、12/16、12/17、12/18、12/19、12/20、12/21、12/22、12/23、12/24、12/25、12/26、12/27、12/28、12/29、12/30、12/31)

LIVE: 1990.3.31 エビスファクトリー

去年3月2日パワーステーション以来1年ぶりのシオン。レコードを聴いたりすることもなく、2月に出た新しいアルバムも聴いていないから本当に1年ぶり。ステージがはじまる前にかがたのがザ・バンドの「ラストワルツ」。「あ、ラストワルツ」と思わず声を出した。あれをきいたとたん、もうじが一点にまとまった。シオンがステージにあがった。すてきな笑顔、しなやかな動き。この日聴った歌の半分くらいは、はじめて聴く歌だった。なんかシオンにはライブだけで角張った、感じかして「夜しか泳げない」も買わないでいたけど、それが本当によかった。目で歌を聴くことができるから、はじめからおわりまで一瞬もシオンから目が離れなかった。シオンの生きている場所が見えた。



「2号室」という歌。すごい歌。美しいほどに哀しい。8オのときのことと、いま、ああいう歌にして歌うシオン。ああいうものを流めたままにしないで、いま歌えるシオンはきれいだった。きれいな心。心に痛みを感じながらも、ほろえんていられるシオン。「コンクリートリバー」で「うまれたその日からもう死にむかって走りつづけるのかい」とシオンは歌っているが、そう、死ぬまで生きられない。私のからだから一瞬一瞬休みなく生きていられる時間がはがれおちていく。「おまえにはおまえのかわりはない」とシオンは歌う。そうだね、私には私のかわりはないんだね。だから生きていようと生きる。できるだけ自由に、ほいものはもうなにもない。きれいな心のほかに、のこしてきたいものもなにもない。



ALBUM: "夜しか泳げない"

ライブのあと会場にCDを買ったのだが、まだ1回もかけていない。会場でかくし録りしたテープばかり聴いているから。

3年間で、4回のライブと、もらったテープでしかシオンの歌に角張っていない。それなのに、心の底にはシオンの叫びが流れていた。その叫びの流れにそったリ、さかめたりすると、映画のようなものができあがる。私の心に。そして、映画とちがって、カーテンが降りないのいいな。

SPECIAL THANKS TO: 矢野 John 謙治君。シオンを教えてくれて、レコードを貸してくれて、ダビングしてテープをくれて、シオンを描いた絵もくれました。

## SCENE: 原宿歩行者天国 1990.3.18

雨が降ったり止んだりこの日の原宿歩行者天国。ボーイズがはじまるのだが、ウォーカーの人は歌をつかまされないうらしく、1回目のステージは途中へおわり。50mくらい離れたところで、大きなトラックの荷台の上の、かつての野沢直子がキンキン声で叫んでいるし、DISTOMAがガチャガチャやっている。テレビ番組をとっているらしく、たいへんな人だかり。ボーイズのところへ離れてくると見てわかる。プロモーションばかりが目につくFUSEもなにかやっているし、人気バンドのメンバーたちがウロチョロしているし、そんなのを追いかけて女の子たちがキャーキャーいながらドタドタ走りまわっている。この日はとくに、おまつりさわぎ。まあ、好きにやんなよ、って感じ。「なにを歌ったらいいのかわからぬ」といって途中で歌うのをやめるようなそういう歌を歌っていた人が、あそこには何人いたんだろう？そして、あんなにたくさんの人のおかげで、そういう歌を何人がきけたんだろう。あそこで、ただおまつりさわぎのようなこの世のなかに、ほんとうの歌を歌う人はいったいいるし、ほんとうの歌を必要とする人もいるのだ。

LIVE: ボイラーズ 1990.4.27 高円寺 20000V

ボーイズの前にやったブルー・マジック・フランケンシュタイン、なんにも感じることなくぼんやりとしたまま。ボーイズがはじまった。なんにもわきあがってこない。ステージに目がいかない。よそみばかりしていた。1階の道、ティラノサウルス(2/24 ラマ)があんまりすごかったのでも、もう感じる力がなくなっていたのか、などと考えながら新橋で電車を降った。KIRIN CITYの前の石だたみのところで、フレンチギターとコンガを外国人がやっていた。ギターの音にひかれて足をどめた。つぎにギターにあわせて女の子がフレンチギターを踊りはじめた。すばらしかった。新宿の路上にスペインの土の感触を感じさせるギターと踊りだった。20000Vの大音響の虚しさのあと、すばらしい、感じる力がなくなったんじゃない。ステージに力がなかったんだ。

ボーイズが、この日、歩行者天国のライブをやった。BOURST HEADは今、5/6新橋ロフト 11:00 PM ~ ボイラーズのVo.のフレンチギターを弾く。風太郎とそっくりな、5/19、5/20、5/21、5/22、5/23、5/24、5/25、5/26、5/27、5/28、5/29、5/30、5/31、6/1、6/2、6/3、6/4、6/5、6/6、6/7、6/8、6/9、6/10、6/11、6/12、6/13、6/14、6/15、6/16、6/17、6/18、6/19、6/20、6/21、6/22、6/23、6/24、6/25、6/26、6/27、6/28、6/29、6/30、7/1、7/2、7/3、7/4、7/5、7/6、7/7、7/8、7/9、7/10、7/11、7/12、7/13、7/14、7/15、7/16、7/17、7/18、7/19、7/20、7/21、7/22、7/23、7/24、7/25、7/26、7/27、7/28、7/29、7/30、7/31、8/1、8/2、8/3、8/4、8/5、8/6、8/7、8/8、8/9、8/10、8/11、8/12、8/13、8/14、8/15、8/16、8/17、8/18、8/19、8/20、8/21、8/22、8/23、8/24、8/25、8/26、8/27、8/28、8/29、8/30、8/31、9/1、9/2、9/3、9/4、9/5、9/6、9/7、9/8、9/9、9/10、9/11、9/12、9/13、9/14、9/15、9/16、9/17、9/18、9/19、9/20、9/21、9/22、9/23、9/24、9/25、9/26、9/27、9/28、9/29、9/30、10/1、10/2、10/3、10/4、10/5、10/6、10/7、10/8、10/9、10/10、10/11、10/12、10/13、10/14、10/15、10/16、10/17、10/18、10/19、10/20、10/21、10/22、10/23、10/24、10/25、10/26、10/27、10/28、10/29、10/30、10/31、11/1、11/2、11/3、11/4、11/5、11/6、11/7、11/8、11/9、11/10、11/11、11/12、11/13、11/14、11/15、11/16、11/17、11/18、11/19、11/20、11/21、11/22、11/23、11/24、11/25、11/26、11/27、11/28、11/29、11/30、12/1、12/2、12/3、12/4、12/5、12/6、12/7、12/8、12/9、12/10、12/11、12/12、12/13、12/14、12/15、12/16、12/17、12/18、12/19、12/20、12/21、12/22、12/23、12/24、12/25、12/26、12/27、12/28、12/29、12/30、12/31)

## LETTER: to 井口亮様

4月17日渋谷公会堂の有頂天のライブに行ってきました。開演時間が40分も遅れても、いつものことで何のアナウンスもなし。「君はガンなのだ」がやっぱり、いりばんよかったです。歌にあわせて心がウキウキ、体が跳りました。そうです、ケラが歌っているように、ガンになればもうこわいものはない、ビクビクすることもなし、やりたい放題ができて、非情にもなれる。だからガンになるまでは、それまでは有頂天の楽しいライブでも見て楽しくやればいーと思いました。映画「ハンナとその姉妹」で、ウディ・アレンの演ずる男が生きた意味を見失い、宗教に頼ろうとしても救われず自殺まで考えたとき、フラフラと入った映画館の画面で楽しく踊るマルクス兄弟を見て、生きる意味があってもなくても、神があってもなくてもいい。楽しくやればいいんだと思ったのとおなじに。ガンかもしれないと病院で診てもらった結果はガンではなかったとのことですが、やりたい放題のオノシメはすこしあふれたにわけて、ザンネンではありませんか？ま、楽しくやりましょう。おたがいに。またぜひお会いしたいです。

WORDS: ボビー・デュランゴ (ROCK CITY ANGELSのVo.)



俺達のサウンドは、言ってみれば、マジ・ウォーターズとSEX PISTOLSの中間みたいなモンだけど、ブルースとパンクに口笛一矢通点があるとすれば、それば正直な音楽だということさ。

LIVE: HEROIN ROCKERS 1990.5.2 高円寺 20000V

前回よりすこしうわさった感じがしたが、やっぱり迫力がある。

この日やったBAD TRIPもすごかった。

HEROIN ROCKERSのライブ: 5/6 アンティノック 5/11 ナルシス (浦和) 5/1 20000V「からうだけのパンク野郎おことわり」とチラシに書いてある。